

資 料

資料 No.	名 称
資料 1	トリアージハンドブック（東京都福祉保健局） http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kyuukyuu/saigai/triage.html
資料 2	保健福祉的視点によるトリアージ （「大規模災害における保健師の活動マニュアル」全国保健師長会） http://www.nacphn.jp
資料 3	災害時こころのチェックリスト （「大規模災害における保健師の活動マニュアル」全国保健師長会） http://www.nacphn.jp
資料 4	深部静脈血栓症／肺塞栓症（エコノミークラス症候群）資料①②（厚生労働省） http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121802.html
資料 5	栄養相談のお知らせ（避難所掲示用）
資料 6	水害時の衛生管理と食中毒・感染症予防について
資料 7	ノロウイルス感染【おう吐物の処理の仕方】（東京都西多摩保健所） http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/nisitama/shokuhin/noro.html
資料 8	手洗いポスター（東京都福祉保健局、食品衛生の窓）＜流水・石鹸＞ http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/pamphlet/poster.html
資料 9	ポスター「手洗いで感染症予防」（国立感染症研究所）＜手指消毒＞ http://www.nih.go.jp/niid/ja/disaster/earthquake201604/2377-idsc/6433-kumamoto-qa-poster.html
資料 10	ポスター「咳エチケットで感染症予防」（国立感染症研究所） http://www.nih.go.jp/niid/ja/disaster/earthquake201604/2377-idsc/6433-kumamoto-qa-poster.html
資料 11	避難所におけるトイレ清掃ポスター（東北感染症危機管理ネットワーク（東北大学大学院医学系研究科 感染防御・検査診断学分野）） http://www.tohoku-icnet.ac/shinsai/hotline_ippan.html
資料 12	避難所・仮設住宅等のハエ・蚊対策リーフレット（国立感染症研究所） http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2128-disaster/ent.html
資料 13	やさしい日本語パンフレット（弘前大学人文学部社会言語学研究室） http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm
資料 14	災害時の医療チーム・専門チーム・外部支援者等一覧

（URL は、いずれも平成 28 年 12 月 5 日アクセス）

資料 1

トリアージ研修テキスト

トリアージ ハンドブック

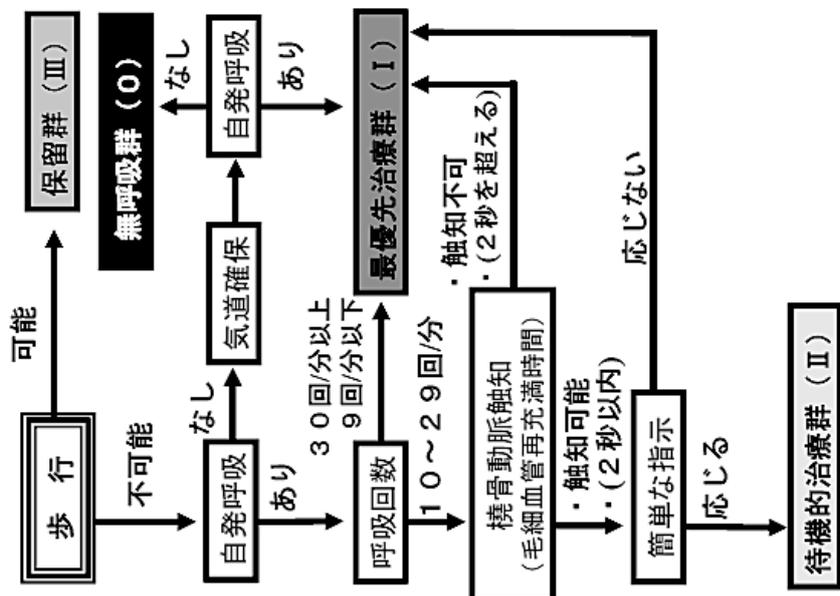
東京都福祉保健局

トリアージハンドブック (東京都福祉保健局)

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/kyuukyuu/saigai/triage.html>

II トリアージの実践

1 START



*参考 (START plus 法): 最後に介助歩行可能の場合「保留群」と判断する。

資料 2

【参考】保健師による保健福祉的視点でのトリアージ
 避難所の環境下では、生活が困難あるいは医療提供が不十分なため、病状悪化や新たな健康問題を生じる可能性があることから、保健福祉的なアセスメントを実施し、避難所等での生活継続が可能なかを判断する。
 下記の表のように、ステージⅠ～Ⅳに保健福祉的視点でのトリアージの判断基準の例をあげる。被災地の通常の避難所や在宅生活が可能レベルは、ステージⅢ～Ⅳである。ステージⅠは、福祉避難所や環境や体制を整えることで生活が可能と判断されるが、対応ができない場合には専門家の支援やライフラインが整っている環境等での生活を検討する。下記の判断基準は、災害規模や被災地の状況により異なるため、参考とする。

分類	対象者	対象者の具体例
ステージⅠ 避難所等で集団生活が困難で専門的なケアが必要なレベル	医療依存度が高く医療機関への保護が必要な避難者 福祉施設での介護が常時必要な避難者	人工呼吸器を装着している者、気管切開等があり吸引等の医療行為が常時必要な者 医療ケアが必要でない重度の障害者、寝たきり者で介護が常時必要な者
ステージⅡ 他の被災者と区別して専門的な対応を必要とする必要があるレベル	福祉的なニーズが高く介護援助等の継続が必要な者 医療的なニーズが高く医療やケアが必要な者	軽中等度の障害者等日常生活面で一部介助や見守りが必要な視力障害者、聴力障害者、身体障害者 精神障害・発達障害・自閉症等で個別の対応が必要な児・者 軽中等度の障害者等日常生活面で一部介助や見守りが必要な視力障害者、聴力障害者、身体障害者 医療的なケア（在宅酸素、人工透析、インシュリン注射など）の継続が必要な者 感染症で集団生活場面からの隔離が必要な者 乳幼児、妊産婦など感染症の防御が特に必要な者 親族の死亡、PTSDなどで精神的に不安定で個別支援が必要な者 *状況に応じて医師の判断により被災地を離れる必要性がある
ステージⅢ 定期的な専門家の見守りや支援があれば、避難所や在宅生活が可能レベル	医療的なニーズ 福祉的なニーズ 保健的なニーズ	慢性的な疾患があるが、内服薬の確保ができれば生活が可能となる者 精神的に不安定さや不眠などの症状はあるが、見守りや傾聴などの支援が必要な者 見守りレベルの介護が必要で、ヘルパーや家族等の支援の確保ができれば、避難所や在宅生活が可能となる者 高齢者のみ世帯等で、ライフライン途絶により、在宅生活の継続のために生活物資の確保に支援が必要なレベル 骨関節系疾患や立ち崩れに支障がある高齢者等、生活不活発病予防のために、褥瘡の配置や運動の促しなどの支援が必要なレベル
ステージⅣ：現状では生活は自立して、避難所や在宅生活が可能レベル		

資料 3

〈参考〉災害時こころのチェックリスト
 (厚生科学特別研究会「災害時地域保健医療活動ガイドラインを改定」)

場所	面接日時	年月日
対象者氏名	年齢・性別	歳 (男・女)
記入者所属	電話番号	
	非常に	明らかに
①落ち着かない・じっとできない 「何か、行動をおこさなければ」と、焦りの気持ちを持っている、動作がせかせかしている。		
②話がまとまらない・行動がちぐはぐ 話題があちこちに飛び、用事を合目的に実行できない。		
③ぼんやりしている・反応がない 話しかけられてもなかなか返事ができず、上の空。甚だしい場合には、茫然目呆。		
④怖がっている・おびえている 小さな物音を余震と間違えるなど、普段なら平気な対象を強く恐れる。		
⑤泣いている・悲しんでいる 一見落ち着いていても、ちょっとした声かけに、涙ぐむ場合もある。		
⑥不気そうである・おびえている 具体的に何かを恐れているのではなく、漠然と、現状や先行きを心配だと感じている様子。		
⑦動悸・息が苦しい・震えがある 他覚的に確認されるものでも、自覚的なものでも可。		
⑧興奮している・声が大き 威勢が良く、張り切っている。周囲の事によく気が向くが、イライラと怒りっぽく、他者を叱責したり、指図したりする。		
⑨災害発生以降、眠れていない 寝れてはいるけれども、緊張や警戒心で寝付けない場合と、「眠らなくても平気」と感じている場合がある。		

「保健福祉的視点によるトリアージ」

「災害時こころのチェックリスト」

資料 2、資料 3 とともに「大規模災害における保健師の活動マニュアル」(全国保健師長会)

<http://www.nacphn.jp>

資料 4 ②

エコノミークラス症候群 予防のために

- **エコノミークラス症候群とは**
 食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり(血栓)が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。
- **予防のために心掛けると良いこと**
 予防のためには、
 ① ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
 ② 十分にこまめに水分を取る
 ③ アルコールを控える。できれば禁煙する
 ④ ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
 ⑤ かかとの上げ下ろし運動をしたりひくらはばきを軽くもんだりする
 ⑥ 眠るときは足をあげる
 などを行います。

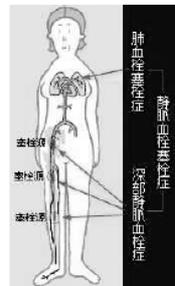
○ **予防のための足の運動**



資料 4 ①

深部静脈血栓症/肺塞栓症 (いわゆるエコノミークラス症候群)について

1. 深部静脈血栓症/肺塞栓症(いわゆるエコノミークラス症候群)とは
 - 車中で寝泊まりするなど、長時間足を動かさずに同じ姿勢でいると静脈に血の固まり(深部静脈血栓)ができ、この血の固まりの一部が血流によって肺に流れて、肺の血管を閉塞してしまう(肺塞栓症)ことにより、生命の危険を生じる可能性がある病気です。
 - 大腿から下の脚に発赤、腫脹、痛みが出現したり、胸痛、息切れ、呼吸困難、失神等の症状が出現したりします。
 - 高齢者、下肢静脈瘤、下肢の手術の既往、骨折等のけが、がん(悪性腫瘍)、深部静脈血栓症・心筋梗塞・脳梗塞等の既往、肥満、経口避妊薬の使用、妊娠中または出産直後、生活習慣病(糖尿病、高血圧、高脂血症等)がある方は、特に注意する必要があります。
 - 災害やその避難生活による種々の環境で、この病気がより発生しやすくなるとの指摘があります。
2. 予防について
 - 長時間同じ(特に、車内等での窮屈な)姿勢でいることは避ける。
 - 歩くなど、足を動かす運動を行う。
 - 適度な水分を取る。
3. この病気が疑われる場合の対応について
 - 歩行時の息切れ、胸の痛み、一時的な意識消失、あるいは片側の足のむくみや痛みなどが出現した場合には、早急に医療機関を受診してください。



国立循環器病研究センターHPより

深部静脈血栓症/肺塞栓症について

エコノミークラス症候群予防のために

資料 4 ①②とも(厚生労働省) <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121802.html>

資料5

食事や栄養についてお困りの方！ 管理栄養士・栄養士にご相談ください。

- 食物アレルギーをお持ちの方
- 離乳食、ミルクで困っている方
- 生活習慣病（糖尿病、高血圧など）の方
- 食事に配慮が必要（腎臓病、嚥下が困難な高齢者）な方
- 便秘、下痢気味の方
- 食事や栄養に少しでも不安のある方

など…

**どんな小さなことでも管理栄養士・栄養士が
相談をお受けします。
ご希望の方は、巡回職員にお声かけ、もしくは
栄養相談窓口までお気軽にお越しください。**

《栄養相談窓口》

開設場所：

開設時間：

電話番号：